



社団法人

海外と文化を交流する会

(社)海外と文化を交流する会会報

2004年12月発行(3ヵ月1回発行)

第25号

”知と心”の繋がりに文化の原点を求めて

日本を理解し日本で学ぶ留学生への支援 貧しい国々での医療活動を支援 各国大使館との協力などによる文化講演会の主催

事務局 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-27-6 パイナル内 TEL&FAX 03-3370-7654

巻頭詩

天と地とが

まど・みちお(詩人・児童文学者)

まど・みちお：明治42年山口県生まれ。台北工業卒。国際的な評価も高く、「アンデルセン賞」その他数多くの賞を受賞。著書に「ぞうさん」(ぞうさん ぞうさん お鼻が長いね.....)や、「まど・みちお詩集」「宇宙のうた」ほか多数。動物に関する詩20編は美智子皇后が英訳するなど、話題になりました。掲載の詩は、作者の快諾を得て転載しています。

天と地とがあるからのようにあるのか

昼と 夜とが

今日と 昨日とが

いや 今日と

その素晴らしい今日を

無限につづけるために訪れる明日とが

天と地とがあるからのように

火と 水とが

虹と やまびことが

そして 生き物と

そのやさしい ふるさと

生きていない物とが

天と地とがあるからのように

植物と 動物とが

男と 女とが

そして 親と

やがて より素晴らしい親になるための

愛らしい子どもとが

おお あるのか
天と地とがあるからのように
人間にも
眠りと 目覚めとが
喜びと 悲しみとが
そして 絶望と
その中からいつも生まれてくる
新しい希望とが

まど・みちお 「ぼくが ここに」 童話屋より カット/松岡裕子

留学生からの報告

(社)海外と文化を交流する会がおこなっている事業のひとつに、海外からの留学生を支援するということがあります。ここに、現在、海外と文化を交流する会が支援する留学生から報告を受けました。そのうち以下の2名の報告文を掲載します。

退屈な毎日は充実した日々が変わった

丁 顔氷 (東洋大学国際観光専攻2年)

今年、また「海外と文化を交流する会」(以下交流する会と略記)の奨学金を申請する機会を得て本当に有難いと思う。去年「交流する会」の皆様のおかげで、この奨学金をもらえることができた。学業とアルバイトを両立しなければならない多忙な私としては、本当に助かった。感謝の気持ちを込めて、「交流する会」の皆様に「ありがとうございます」と言いたい。これから去年の奨学金の使い道と「交流する会」に参加した後の感想を皆様に報告したいと思う。

去年頂いた奨学金は、自分の専門の観光方面の資格参考書と日本語を勉強するための電子辞典に使った。特に、電子辞典は前からずっと欲しかったので、やっと手に入れて本当にうれしかった。この電子辞典があってから、学校にいる時間だけでなく、通学の電車の中でも気軽に日本語の勉強が出来るようになった。もし今年もこの奨学金を頂けるようになれば、また有効に活用できるのでうれしく思う。

何回か「交流する会」の行事に参加して、いろいろ勉強になった。留学生の私は、学費と生活費は全部自分が負担しなければならないので、学校で勉強する以外の時間は殆どアルバイトに注ぎ込んでいて、非常につまらなくてたまらなかった。しかし、「交流する会」に参加してから、いろんな活動を実践していく中で、新しい友達も出来たし、日本人とのコミュニケーションもできた。前の退屈な毎日は充実した日々が変わった。

日本に来てから三年半の間、私は知識を吸収するほか、いろいろな新しいことを経験した。一方、よく日本人から中国を誤解しているような質問を受けるので、日本と中国の交流はまだ

まだ足りないと感じた。特に、この間のアジアカップのブーイング事件は最もこの問題を反映した。このような問題は、政府間だけの力で簡単に解決できないと思う。やはり民間の人たちの交流も取り入れて、相互理解を深めて、地域社会の中で異文化共生の関係を構築すれば、ひいては両国の共同発展へ貢献する。だから、人間の共同生活を通じて交流を促進するホームステイ活動は、民間交流の目的に一番近い方法ではないかと思う。この他、留学生としての私達も責任を持って日本で留学経験を生かし、日本と中国の間の架け橋となり、対日理解、友好関係増進へ貢献できるように努力したい。

意識転換がもたらした活動

田 薔（早稲田大学社会科学専攻2年）

海外と文化を交流する会との出会いは一昨年の冬でした。初めて日本人のお宅を拝見し、初めて茶道を体験し、初めて日本人と心の触れ合いが出来ました。当時は2年間日本語学校に通った後、早稲田大学に入学したばかりの私にとって、貴重なスタート点ともいえます。この出会いの前に、家、学校、アルバイト先と3点一線の日々が3年も続きました。日本に留学する決心も、この忙しい毎日にだんだん慣れてしまいました。

交流会で、日本の古典文化（茶道、着物）を見せてもらって、皆と楽しく話し合っ、今まで知らなかった世界が目の前で開かれました。中国人でも、日本人でも、カナダ人でも、誰とでも人と真の交流を求め、この交流を通してお互いに理解しあうことも出来ました。私にとっては醍醐味でした。孟先輩の琵琶のコンサートや、受賞論文の紹介の会など、いろんな集まりに参加させていただいて、更に、奨学金まで頂戴し本当にありがとうございました。

海外と文化を交流する会との付き合いの中で、積極的に人と接する意識が身につきました。大学で600人の留学生会の宣伝部長を務め

中日友好交流会長 長 宗健 氏の名誉博士授与式に出席

NHK・BSディベートアワーという番組の収録に参加

ある日本語学校で日本事情の授業を行う

「留学生から見る日本人」（仮題）の出版を準備

中国共青团海外留学人員創業団に参加する予定

など、充実した毎日を送っています。意識転換がもたらしたものだと思っています。つまり、海外と文化を交流する会のお蔭です。

日本での生活は決して楽ではありませんが、これは誰でも同じで、精一杯頑張らないと生きてはいけません。学生の私にとって、いろんな活動の参加とアルバイトの両立はなかなか難しいです。それでも私よりも貧しい人がいっぱいいます。全日本中国留学人員友好联谊会から呼びかけがあり、中国の貧困学生の学業完成を支援する活動にも参加しました。学生1人分1年間の費用五千円を寄付しました。あまり大金ではないけれども、この金で子供の人生が変わるかもしれません。

昨年いただいた奨学金はこのような活動の中で消えてしまいました。私としては有効に使うことが出来たと思っています。もし、今年も続いていただければ、前から欲しかったパソコンを買いたいです。皆とすぐ連絡が取れ、交流出来るからです。是非よろしく願いいたします。

川島成道コンサート感想

04年11月20日(土)、午後の時間、青山学院大学・東京青山キャンパス内ガウチャー記念礼拝堂で、(社)海外と文化を交流する会主催のチャリティコンサートが催されました。「奇跡のバイオリニスト、天使のバイオリン・川島成道さん」の出演です。欧米マスコミから「気絶しそうに美しい音色」と評される、世界的なバイオリン奏者です。ほかの出演は東京ハルモニア室内オーケストラ、飯靖子(チェンバロ・パイプオルガン)の総勢12名。終演後に、川島成道さんのサイン会とCD販売をいたしました。以下はその感想文です。

あたたかいひととき「川島成道チャリティコンサート」

村瀬玲子(海外と文化を交流する会会友)

身体全体からほとばしる音の響き、清らかな音色、驚くべき腕の動き、絵物語を伝えるが如く私たちを感動の世界へと連れて行ってくださいましたコンサート。最後には11月21日の川島成道氏のお誕生を祝い、オーケストラの皆様とともにハッピーバースデーを歌い、お祝い出来ましたこと、何よりのプレゼントでした。温かいひとときを有難うございました。

音楽での、生まれて初めての感動

馬 潔(留学生・東洋大学国際観光学科3年)

先日、川島成道先生のコンサートをお手伝いすることができて大変うれしかったです。普段は直接体験することができない生演奏に、言葉で表現しきれないほどの感動をおぼえました。ヴァイオリンの高い響きが会場を凜とさせ、身の引き締まる思いがしました。驚くほど美しい音色が体の隅々まで響きました。音楽にこんな感動をおぼえるのは生まれて初めてです。この感動の余韻がいつまでも残っていると思います。改めて感動をありがとうございました。

「天使のヴァイオリン川島成道」を聴く

室井鐵衛(海外と文化を交流する会会長)

久し振りに訪れた青山学院大学の正門を通過してキャンパスに入っていくと、目にとまったのは、新しくできた礼拝堂の前に並んだ多くの人達の列でした。おやっと思いつつ近づくと、それは「海外と文化を交流する会」主催のチャリティー・コンサートに来られた人達の列でした。今までこの会が催したチャリティー・コンサートで、こうした光景を見た経験がなかったので、何か緊張した気持で礼拝堂に入りました。やがて礼拝堂に次々に入ってくる人達が、皆さんなんとも言えない落ち着いた品のいい雰囲気、これから始まるコンサートに何か緊張した予感を覚えました。この予感とは、天使のヴァイオリンの呼び名の高い川島成道さんの演奏が、どんなに素晴らしいかが期待されていることだったのです。

人々を魅惑させる音楽の力、その力を持った演奏家の演奏、そしてそれを実現させる優れた

曲の存在、こうした条件が一体となって、そこに人を感動してやまない演奏会が実現するのだと思いますが、特に、今回のガウチャー礼拝堂での川島さんのヴィヴァルディの四季全曲の演奏は、その通りのとても素晴らしいものでした。

東京ハルモニア室内オーケストラが、パッヘルベルのカレンを演奏し始めると、一瞬、堂内は静寂の落ち着きで美しい音楽の空気で満ち溢れました。そして、ヘンデルのオルガン協奏曲は、堂内を一層の静けさと、安らぎの空気で満たしました。こんな雰囲気の中で川島さんの四季は演奏されました。それは自然の力そのものが我々に迫ってくる美しさでした。壇上の演奏する川島さんの姿は、世俗を離れた道士のように見えました。簡素な服装に包まれた清らかな道士の姿、それは人の心を澄ませ、謙虚にさせ、何か自然のもつ命の力の純粹さを感じさせるものでした。これが天使のヴァイオリンといわれる由縁なのでしょう。

3回のアンコールの後で、ハッピー・バースデーが流れてきたときは、感動の絶頂に達しました。胸にこみ上げてくるものを抑えることが出来ませんでした。

帰る車の中では、気持が晴れ晴れとして何か別の世界に行ったような気分でした。時刻も夕方になり車のラッシュに囲まれ始めると現実に戻りました。しかし静かに落ち着いた雰囲気ですべて素晴らしい演奏を聞いた後の気分は格別のものでした。

天使は、いた

中野真逸郎（海外と文化を交流する会理事）

音をことばで表現するのはむずかしいことです。もちろん私には、その表現は至難のわざです。ですが、「奇跡のヴァイオリン・天使の音色」というキャッチフレーズは、言い得て妙、というものでした。

ヴァイオリンへの悪口はキンキラした音、それは気分を落ち着かせません。川島さんの音はちがいます。落ち着きを与えてくれます。人格がでるのでしょうか。彼は10歳からのヴァイオリニストです。それも、薬害による失明以後、そうとうな苦しみと並行しながら、身につけた天使の音色です。このコンサートが始まるひと月前の中越震災に、川島さんは駆けつけ、被災者にそのヴァイオリンを聴かせました。

ガウチャー記念礼拝堂で、私も天使と会うことができました。

ボランティアの皆さま、ありがとう

コンサート当日には、会員はもとより、大勢のボランティアの皆さまが会場でお手伝いくださいました。心よりお礼申し上げます。

<ボランティアの方々・順不同・敬称略> 村瀬玲子・敬子、大林浩子、平田愛子、平本美智子、横山正子、長与珠里、角谷豊・雅代、田蕾、丁顔氷、劉志興、馬潔、向後えり子

会からの報告 & お知らせ & お願い

中越地震募金ありがとうございました

秋のチャリティコンサート会場で、おりからの中越地震被災者への募金をよびかけたところ、80,455 円の寄付がありました。寄付をくださった方々に厚くお礼申し上げます。この募金は、しかるべきところをとおして被災地に寄付いたします。

つどい 「留学生との交流」

秋に予定していた「キッチン交流と対話のつどい」は、秋のチャリティコンサートがあるので、2005 年のはじめになりそうです。場所・日時は決まり次第、お知らせします。お問い合わせは、事務局まで FAX か e-mail でどうぞ。ホームページでも発表します。

会員親睦食卓会

これまで、会員同士の親睦を深めるといった活動については、すこしお休みをしていましたが、式次第など無関係に、気軽に、気楽に、食事でもしたい、という声があがってきました。そこで会費制で、12 月 4 日、東京麹町のレストランでランチということで小規模に実施いたしました。今後も日時、場所を検討しています。改めてお知らせしますが、お問い合わせは事務局まで。

寄付をいただきました

次の方々から当会へ寄付をいただきました。ありがとうございました。有意義に遣わせていただきます。

室井鐵衛さま、成毛典子さま、本田朋子さま(CD)、角谷多美子さま(図書券)

会費納入のお願い

2004 年度の年会費納入をお願い申し上げます。2002 年度 2003 年度の年会費未納の方は、ぜひともご納入ください。高く評価されている当会の活動は、皆さまのご支援あってこそなのです。

郵便振替 00130-2-366249 社団法人海外と文化を交流する会

銀行振込 東京三菱銀行渋谷支店 (普) 2266599 海外と文化を交流する会

会費 10,000 円（正会員） 5,000 円（特別賛助会員） 3,000 円（学生会員）

海外と文化を交流する会事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-27-6 パイビル内

TEL&FAX 03-3370-7654 e-mail:jimukyoku@kaigai-bunka.org